

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572510618		
法人名	株式会社福わらい		
事業所名	グループホーム鳥海		
所在地	秋田県由利本荘市鳥海町下笹子田中61-2		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道108号線沿いに面した田畑や四季折々の山々に囲まれ、ゆったりとした環境です。季節に応じた行事計画を行い、感染症対策には留意しながら、集団・個別での外出支援・散歩も行っております。家庭的な雰囲気は大切に、お気に入りのエプロンと感染症対策に留意しながら、キッチン作業をしていただいております。また、6S活動の推進と社内研修の充実、入居者様がより快適にお過ごしいただけるよう、環境整備と人材育成に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中での地域との関わりが大変厳しい状況下ではありますが、おおむね例年通り慰問ボランティアの受け入れ、遠出のドライブの実施など感染症予防対策を徹底しながら支援されています。廊下には利用者一人ひとりの年度の活動目標が掲げられ、そして達成度合いが記入されており、評価しながら全職員が目標に向かって取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	株式会社福わらいのビジョンを念頭に、地域に根差したサービスを提供できるよう努める。グループホーム自体の理念もスタッフと共有しながら、サービス提供させていただく。	会社の運営理念を基に、職員全員からアンケートを取り会議等で検討し、事業所の理念をつくり、全体会議などで確認しながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、定期的なボランティア受け入れはできなかったものの、大きな行事の際に、感染症に留意しながら受け入れを行った。同じく、出張理容も受け入れを行った。	コロナ禍のなかで地域との関わりが難しい中でも、事業所の敬老会には地元の有志の方が慰問に来てくださり、散歩時には近隣住民との挨拶などもあり、交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進委員会や地域ケア会議、いずれも民生委員さんが参加されている会で行っている。コロナ禍により、開催できなかったり参加できていないが、お便り等で事業所の活動を報告している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症に留意し、開催している。その場でいただいたご助言をもとに、サービスに反映するよう努めている。	会議には地域の行政協力員・行政職員(包括)家族代表などが出席され意見交換しサービスの向上に繋げています。	議事録の内容が分かりやすいような、また意見が出しやすいような工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議の案内を定期的に届けて下さる、地域包括の方や介護保険の認定調査の際に来所された方などの訪問を通して行っている。	福祉事務所職員の定期的な訪問、ケア会議出席時には情報提供などもあり協力関係を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針に基づき、6月と12月に身体拘束等に関する勉強会を行っている。	定期的に勉強会を実施、拘束の内容を理解され、拘束のないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に勉強会を行っている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して、学んでいる。以前、利用されていた方が、日常生活支援事業を利用されていた。現在、利用中の方もひとつがあれば、利用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定があった場合は、入居者様、ご家族様同意の上、一部はご家族にて保管していただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日常のケアの中から、ご家族は面会や電話を通じて、全体会議で検討し運営に反映させるよう努めている。	感染症対策を徹底しながら、短時間での面会を実施、また写真入りのお便りを家族に送り、意見や要望などがあったときは運営に反映するようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの個人面談、全体会議、リーダー会議などで提案し、職員意見が反映されるよう努めている。	ミーティングや全体会議などで意見交換し、気付きや要望など運営に反映するようにしています。備品の購入など事例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などで把握し、キャリアパスと階層別人材育成計画の立案に向け、職場環境、条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	階層別育成計画に基づき、OJT,OFF-JT、SDSに応じた研修、勉強会への参加をする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や地域ケア会議を通じて、交流を図り、サービスの質の向上につながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回相談時や入居時にご本人の意向を聞き取りご本人が安心してより快適に過ごしていただけるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様、意向を聞き取り、関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の日常生活に寄り添わせていただき、食事やレクリエーションを一緒に行ったり会話したりして関係づくりに努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会を通じて家族の絆が継続できるよう情報提供し関係づくりに努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人との面会が継続できるようなかわりの場を提供。	行きつけの床屋さんが出張して来てくれたり、利用者の出身地域へ職員と同行したり、出来るだけこれまでの関係が継続出来るように支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の方が入居されても違和感のないテーブル配置。お互いに声掛けあい、助け合いの様子がみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設の紹介をしたりのちの相談も受け付けたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議を通じてご本人の意向を把握し、満足した生活ができるよう努めている。困難な場合はご家族に相談し情報把握する。	受診時や入浴介助時などで話してくれることもあり、情報は会議などで共有し実践に繋がっています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回相談時や入居時にご本人の意向を聞き取り把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活の観察、申し送りなどで把握するよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやサービス担当者会議での意見を踏まえ、個人に対するサービス内容がくまれた介護計画の作成に努めている	定期的に来所する計画作成担当者には本人・担当職員と情報交換したり、必要に応じて電話で連絡したりして、現状に即した介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しに生かせるように個別記録の整備をしている。また、プランの実践状況のチェックも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、医療機関、社協などの協力を得ながら、快適な生活ができるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じて入居前のかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している	受診介助は主に職員が付き添いますが家族の協力もあります。受診情報はノートで共有し、家族へはお便りや必要に応じて連絡しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護配置はないものの、スタッフが情報共有して、適切な受診ができるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要があれば、病院主催のカンファレンスに参加し、状況に応じた対応を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議を通じて話し合い、必要に応じて支援させていただく。	看取りについては入居時に会社の方針を説明し、職員も統一した考えで対応しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は電話の傍の対応マニュアルに従い、行動するようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。また、地域にも呼びかけしているが、協力体制とまではつなげていない。	日中 火災・水害を想定し、消防職員の協力を得て指定の場所(公民館)への避難訓練を実施しています。終了時には講評(報知器の使用方法など)もあり、防災意識の向上に取り組まれています。	地域住民への協力依頼など運営推進会議などで話し合い、実現することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と考え、常に学ばせていただく姿勢を心掛ける。研修等の参加もおこなっている。	利用者のプライドを傷つけないような内容や語調などに注意し、全体会議などで確認しながら取り組まれています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別対応に努め、他者にながされないように自己決定できるよう働きかけている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの、入居者様一人一人がおもいおもいの生活をしていただいている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整髪、男性であれば髭のそり残しがないか確認させていただく。外出の際はよそ行きに着替えていただく		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の説明、食前の口腔体操、一人一人の状態にあった座席の配置、テーブル拭きや可能な限り下膳を行っていただく。職員と一緒に皿をふくなど。	職員も同じメニューで同じテーブルで静かな雰囲気です。食べてみたい食事を聞いたり、外食したりして楽しんでいきます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表をもとに不足な方は追加して接種していただくよう努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた対応をしている。夜間にベッド上でパット交換が必要な方が1名いらっしゃるが、その他の方はポータブルトイレやトイレで行っている。	身体機能に配慮して、一人ひとりに適した用品を使用しています。紙オムツからリハビリパンツへ切り替えるなど、自立に向けたた支援に取り組んでいます。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を摂取していただいていたリラジオ体操したり軽作業を行っていただく。水分量をチェック表にて確認している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はきまっているものの、その時に入れなかった場合は、曜日をかえて対応している。	全介助の方でも浴槽につかっていただき保清に努めています。拒否する方には職員や時間をずらしたりして、週二回入浴されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯寝つきの悪い方は可能な限り、日中は離床して活動していただく。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きをファイリングし全スタッフがいつでも目を通して把握できるようつとめている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に考慮してキッチン作業、洗濯作業、外出支援行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日や近日中に対応している。天候が悪い時は施設内レクリエーションを行い、支援させていただく。	近隣への散歩をはじめとして、遠出のドライブを実施。車いす利用者でも参加して、景色を眺めたり、食事をしたりして戸外に出かけられるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて所持されている		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には随時支援させていただく		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には掲示物で季節感が味わえるよう工夫している。	全館床暖房です。事業所内は掃除が行き届いており、利用者が多く触れる場所(手すり・ドアノブ・トイレなど)は定時に消毒しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所は居室以外はないが、ホールでは気の合った入居者様同士で思い思いに過ごせるよう配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム側では準備したベット以外ではできない限り、入居者様が使い慣れた物をそのまま使用させていただいている。	利用者の中には白木の位牌を祀ってあったり、趣味の書道を継続している方もおり、自分の生活空間が作られています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には手すりを設置し、浴室では滑り止めマットを使用している。個々のベットは高さ調節し、立ち上がりがスムーズに行えるよう配慮している。		